

ONE PIECE「麦わらの一味」10人を巡る熊本地震「記憶の回廊」

～熊本復興プロジェクト麦わらの一味ヒノ国復興編・2023秋備忘録～

銀座パートナーズ法律事務所代表／岩手大学地域防災研究センター客員教授
／人と防災未来センター特別研究調査員／弁護士／気象予報士 岡本 正



1. はじめに

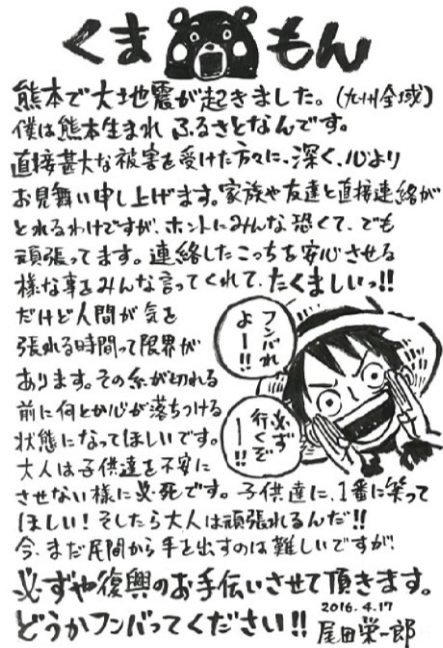
2023年11月29日、良く晴れた水曜日のことである。『ONE PIECE』（ワンピース）⁽¹⁾の「麦わらの一味」像10体をドライブで巡った。阿蘇くまもと空港を出発し「麦わらの一味」全員や熊本地震⁽²⁾の震災遺構等を複数巡り、熊本県庁前「ルフィ像」に至る走行距離は190kmで、所要時間は8時間（レンタカー返却まで9時間）の旅路となった。本稿は筆者個人の旅行記の域を出ないが、研究視察、復興ツーリズム、防災教育、災害伝承、アニメや漫画の聖地巡礼に関する研究等の参考になれば幸いである。



熊本県庁プロムナードのモンキー・D・ルフィ像

2. 麦わらの一味ヒノ国復興編

「麦わらの一味ヒノ国復興編」は、熊本地震を受けて熊本県が尾田栄一郎氏原作の漫画『ONE PIECE』と連携して開始した「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」⁽³⁾の企画の一つである。熊本地震3日後の2016年4月17日に、尾田氏より直筆で「必ずや復興のお手伝いさせていただきます」という応援メッセージが届けられたことに端を発する。



尾田栄一郎氏によるメッセージ

(熊本復興プロジェクト麦わらの一味ヒノ国復興編冊子より)

2018年4月15日に熊本県熊本市出身の尾田氏が県民栄誉賞を受賞。同年11月30日に記念と復興の象徴として「ルフィ像」が熊本県庁前に設置された。2019年から「麦わらの一味ヒノ国復興編」がスタートし、2023年までの4年間で、熊本県内9市町村に麦わらの一味の仲間の像が設置された。各像の設置情報や公式情報については、本稿末尾の表1を参照されたい⁽³⁾。

3. ルフィたちと巡る「記憶の回廊」

(1) 連載26年・1000話以上の未完の物語

『ONE PIECE』は、主人公である海賊モンキー・D・ルフィが仲間たちと海を越え島を巡り“ひとつなぎの大秘宝(ワンピース)”を目指し冒険漫画...などと言いで表すことは不可能なほどの壮大な物語であり、

同時に単行本売上をはじめ様々な記録を更新し続ける巨大コンテンツである。超長期連載にもかかわらず物語が一本道で続いている未完作品で、結末は未だ謎に満ちている。主人公ルフィは海賊船の船長として冒険を重ねて9人の仲間と巡り合い、麦わらの一味は10人になっている。そのひとり一人をめぐるエピソードはあまりに濃密であり、個性はどのメンバーも語りつくせぬほどに際立っている。

(2) 聖地巡礼とフィールドミュージアム

表1のように、麦わらの一味は、各人の役割や特技に因んだ場所に設置され、かつ熊本地震の被害や復興支援のストーリーとともに紹介されている。しかも、「水木しげるロード」や「いしのまきマンガロード」等のように、一つの自治体やエリアに像が集中しているのではなく、熊本県内9市町村という広域にまたがって設置されているという大きな特徴がある。これは、「熊本地震 震災ミュージアム 記憶の回廊」の理念による。記憶の回廊とは、中核拠点（旧東海大学阿蘇キャンパス及び熊本県防災センター）や地域拠点

（県内市町村の震災遺構・交流施設・観光施設・復興活動拠点等）をつないで巡り、熊本地震の記憶を未来へ遺して学ぶ「回廊形式」のフィールドミュージアムの考え方である⁽⁴⁾。麦わらの一味はこの中核拠点や地域拠点に設置された。復興プロジェクト公式ウェブサイトや一ふれとでも「熊本こと「ヒノ国」に上陸した麦わらの一味は、熊本地震の被害が広範囲に及び、今なお、住民が苦しんでいることを知ります。そこで、船長ルフィが、一味の仲間たちに被災地の復興の手助けを指示！仲間たちは、それぞれの特技で被災地の困り事を解決し、復興へのエールを送るルフィのもとでの再会を誓います」と説明されている。

いわゆる「聖地巡礼」⁽⁵⁾としての観光振興効果と、記憶を伝承し学習の場ともする「復興ツーリズム」が見事に噛み合っており、旅行者らへ一層の付加価値を提供する効果が期待できる。筆者は見事にその戦略にはまったわけがある。熊本市の尚綱大学研究チームは「ルフィ像」だけで2019年に5万5000人が来訪し、

経済効果は26億7000万円以上だと試算した⁽⁶⁾。

「ONE PIECE」という世界的超人気作品の公式キャラクター像の設置それ自体が新たな「聖地」を作り出したようである。

(3) スタンプラリーもできるアプリが旅を支援

2022年11月には、熊本地震震災遺構周遊アプリ「IKOU」がリリースされた⁽⁷⁾。麦わらの一味像10か所に加え、熊本市、益城町、阿蘇市、御船町、高森町、西原村、大津町、南阿蘇村、宇土市及び宇城市の震災遺構や観光施設11か所のデジタルスタンプラリーができ、「ONE PIECE」とコラボしたオリジナル待ち受け画面が入手できる。それぞれの場所に関する簡単な説明パンフレットも参照でき、旅のお供としての優れた機能を有している。筆者もアプリをダウンロードしてスタンプラリーを楽しみつつ訪問できた。

4. 「もにゅキャラ」の新たな境地

(1) 超広域巡回型「もにゅキャラ」

麦わらの一味の像を広域で巡る旅路は、「もにゅキャラ巡礼」でもある。著名で大衆的なマンガ・アニメ・映像作品を飛び出して像となった「もにゅキャラ=モニュメントになったキャラクター」（楠見清・南信長2017）は、パブリックスペースに置かれ、親しみやすく、政治的に中立で、先鋭的な芸術作品への反動としても捉えられ瞬く間に各地に広がり、観光や地域活性化の起爆剤となった。一方で「集客力や経済効果という評価軸しか与えられなければそれは店先の招き猫や立体看板に等しく、世代が代われば別のものに置換されてしまいかねない。文化的に求められるのは、原作の魅力をいかに私たちが理解し、地域との関わりや生活のなかでいかに共有していくか、その仕掛けや取り組みといえる」という課題も提示されている⁽⁸⁾。この観点からすれば、熊本地震の震災遺構や災害の記憶を永く後世へ伝え遺す目的を達成するうえで、像の設置自体が聖地化をもたらした「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」は、かつてないほどに「もにゅキャラ」の役割を果たし続けるのだらうと期待が高まる。



「麦わらの一味」設置場所(熊本復興プロジェクトウェブサイト)

(2) 巨大モニュメント鉄人28号

大規模災害からの復興支援を目的としたモニュメントとして印象深いのは、阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けた神戸市の新長田に2009年9月に設置された、全高15.6mの「鉄人28号」の巨大立像である⁽⁹⁾。新長田の駅前に再建された新たな商業エリアには、『鉄人28号』の原作者で神戸市出身の漫画家横山光輝氏の他の代表作『三国志』関連の像も点在している。新長田の復興は、従来の商店街とは大きく異なる都市開発となり、その経緯や合意形成にも多くの課題を残したとされ、商店街の一角が「シャッター街」になってしまった場所も見受けられる⁽¹⁰⁾。これを「復興災害」と捉える研究もある⁽¹¹⁾。これに対し、鉄人28号の建設開始から完成までの経済効果は、神戸市内で68億5800万円にもなった⁽¹²⁾。建設と完成は震災から10年以上経過しており、個々の被災者への復興支援に対する直接効果については更なる検証が必要であろうが、モニュメント設置のメリットは十分にあったと言えそうである。神戸市内は、アクセスが極めて容易であるという強みがある。今後は、地域の観光資源やストーリーの外部への再発進による地元商店街への効果還元に期待が集まる⁽¹⁰⁾。



神戸市長田区の鉄人28号像(2016年2月筆者撮影)

5. 麦わらの一味の10人を訪ねて

9:15に熊本県益城町の阿蘇くまもと空港をレンタカーで出発。空港には「麦わらの一味ヒノ国復興編」の巨大パネルが設置され、観光案内コーナーには複数言語による公式案内リーフレットも置かれていた。

(1) ゴロ

9:30に訪問。大津町(おおづまち)大津中央公園内に設置。麦わらの一味1人目の仲間。三刀流の大剣豪の姿が立体的な像となって高い台座の上から遠方へ睨みを利かせる立ち姿は圧巻で、思わずうなり声をあげてしまった。このユニークな三刀流の構え、ゴロという超人気キャラクターが作り上げた人物像とも相まってとにかく「カッコいい」のだ。午前中の比較的早い時間にもかかわらず、海外観光客も多く来訪しており、筆者もお互いに写真を取り合う。文化の違いを超え一つの芸術作品を通して交流できる素晴らしさを最初から実感することができた。像の左下には小さく尾田栄一郎氏のサインが刻印されていた(尾田氏の手形のあるルフィ像を除き他の9人の像について同様)。公園内にはゴロ像設置の約1年前に大津町ゆるキャラ「からいもくん」⁽¹³⁾が設置されており非常に目立つ。大津町の名産品周知に大いに貢献しているように感じられた。



ロロノア・ゾロ像



ウソップ像



からいもくん像



阿蘇山・草千里

(2) ウソップ

10:25 に訪問。阿蘇市阿蘇駅前前の広場に設置。麦わらの一味の2人目の仲間。巨大パチンコを操る狙撃手。天へ向けて意気揚々と人差し指を掲げる姿からは、「希望」の文字が自然と連想される。「道の駅阿蘇」が隣接しており、軽食を楽しむ国内外の観光客が多数。「阿蘇くじゅう国立公園」や「阿蘇ジオパーク」の大きな案内板もあり、阿蘇山の絶景ドライブのスタート地点としてその機運を盛り上げてくれる。

ウソップ像を発ち、阿蘇山「草千里」に立ち寄り、新しく開店したスペシャルティコーヒー店(草千里焙煎所)でコーヒーとカヌレを楽しんで休息をとったのち、ロビン像を目指す。

(3) ロビン

11:50 に訪問。南阿蘇村旧東海大学阿蘇キャンパスに設置。麦わらの一味の6人目の仲間。どこにでも手足を咲かせられる悪魔の実「ハナハナの実」の力が見事に表現されている。背後には雄大な阿蘇山の絶景が広がり、目線の先には、震災遺構の東海大学阿蘇校舎1号館や地表地震断層がある。「考古学者」のロビンがここに居る理由だ。これらは熊本地震震災ミュージアム「KIOKU」と一体的に整備された⁽⁴⁾。施設は展示スペースを細長い回廊でつなぎ、前半→震災遺構(ロビン像)→後半へと一本道で回廊を歩くだけで自然と展示物を見分できる工夫が凝らされている。まさに「記憶の回廊」を体現するものだった。近隣には、

熊本地震により崩落した阿蘇大橋の震災遺構があり、復興の新阿蘇大橋を渡った対岸から見学できる。



ニコ・ロビン像



旧東海大学阿蘇キャンパス

(4) フランキー

13:10 に訪問。高森町（たかもりまち）南阿蘇鉄道高森駅に設置。麦わらの一味の7人目の仲間。フランキーのキメポーズ「スーパー!!!」がばっちり決まっている。「鉄人」の二つ名を持つサイボーグでエネルギー源はコーラ。背後にコーラ樽もある原作由来の丁寧な演出だ。フランキーは一味の海賊船「サウザン

ド・サニー号」を造った船大工で師匠は「海列車」発明者。南阿蘇鉄道の終点駅（始発駅）に設置されたことで、鉄道利用者や鉄道ファン以外の層を呼び込む効果が期待できる。装飾がなされた南阿蘇鉄道「サニー号トレイン」も線路に展示されていた。南阿蘇鉄道は、熊本地震により一部区間で運休が継続していたが、2023年7月15日に7年3か月ぶりの全線再開を遂げた。ワンピースとコラボしての営業改善に期待が高まる⁽¹⁴⁾。復興の象徴としてフランキー像の意義を強く感じたところである。



阿蘇大橋(残った橋桁等)・新阿蘇大橋



フランキー像



南阿蘇鉄道サニー号トレイン

(5) ナミ

13:55 に訪問。西原村俵山交流館萌の里の丘陵に設置。麦わらの一味の4人目の仲間。財宝やお金が好きというキャラクターから、財宝があふれ出す宝箱に腰かけてポーズを決める。ナミの物語を象徴するものとして風車のタトゥーがある。宝箱の脇にも風車が添えられているのは、ファンならずとも注目せざるを得ない。トルネードなどを操る天候棒(クリマ・タクト)を操る。西原村は俵山を中心に吹きおろしの風が吹き、九州最大級の風力発電施設「阿蘇にしはらウインドファーム」を擁し10基の風車が設置されている。いずれも「風」に因む。また、ナミといえば「ベルメールさんのミカンの木」。麦わらの一味の海賊船のデッキには園庭がありミカンの木が複数植えられている。西原村でもナミ像を囲むようにミカンの木が植樹され、訪問時はちょうどシーズンで実が鈴なりだったのはラッキーだ。

(6) サンジ

14:45 に訪問。益城町(ましきまち)交流情報センター「ミナテラス」の広場に設置。麦わらの一味の3人目の仲間。益城町総合運動公園内でもあり背には陸上競技場が広がる。目線の先の奥は建替えて2020年に竣工した益城町総合体育館。体術を得意とするサンジ像の設置場所としてはうってつけた。益城町は熊本地震の震源地でもあり、観測史上初、震度7が短時間のうちに2回連続した。体育館及び周辺の家屋も

多数全壊し崩れ去るほどの壊滅的な被害を受けた地域が多かった。体育館の天井も崩落したが、幸い最初の地震のダメージを考慮して避難者らは屋外退避していたので無事だったというエピソードが残る(岡本2018等参照)。「給食センター」も地震被害が深刻で復旧に2年も要した。サンジは「コック」で海上レストラン「バラティエ」で修業した。像は料理をサーブする姿。皿の上には魚介類を素材にした料理が乗る。子供たちの支援へ向けられた満面の笑顔だ。



ナミ像



サンジ像



益城町市街地(2016年6月筆者撮影)

(7) ブルック

15:15に訪問。御船町ふれあい広場(恐竜公園)に設置。麦わらの一味の8人目の仲間。入口や園内に恐竜のモニュメントが設置された広場の奥にある。ブルックは一味の音楽家でミュージシャン「ソウルキング」の名も持つ。見た目がガイコツなのは悪魔の実「ヨミヨミの実」の能力で亡くなった後に白骨になってから蘇ったことによる。ギターを豪快に奏でるロックな姿に加え、トレードマークのアフロヘアの丁寧な細工表現も見事である。御船町には九州唯一の音楽単科大学・平成音楽大学がある。熊本地震により1か月休校を余儀なくされた。「ヨホホホ♪」と愉快地歌うブルック像の設置にもってこいである。ここでも他の訪問グループの方々とお互いに写真を取り合う。次はジンベエ像を目指して最も長いドライブに出発する。

(8) ジンベエ

15:55に訪問。有明海を臨む宇土市住吉海岸公園に設置。麦わらの一味の9人目の仲間。巨躯であり座り姿でも9人のなかでは最大級の迫力を誇る。ジンベエザメの魚人という種族であったり、一味の操舵手であったりと、「海」を連想させるのでぴったりである。熊本地震では、宇土市役所の建物がひしゃげるように大損壊した。その映像は何度も全国ニュースに取

り上げられるほどだった。宇土市役所の新庁舎は2023年1月に完成したところである。ジンベエがいるのは住吉海岸の「長部田海床道」(ながべたかいしょうろ)の入口。干潮時数時間に限り道が出現して干潟の奥のほうまで進むことができる。訪問時はちょうど干潮で海床路を歩く幸運に恵まれた。再び潮が満ちてくると海上に電柱の連なる幻想的な景色がつくられる。干満差日本一の有明海の自然を体感できる場所でもあるのだ。ジンベエの設置は2023年7月と麦わらの一味のなかで最も新しい。



ブルック像



ジンベエ像



宇土市住吉海岸長部田海床路

(9) チョッパー

16:55に訪問。熊本市動植物園の入口前に設置。麦わらの一味の5人目の仲間。悪魔の実「ヒトヒトの実」を食べたトナカイで、見てのとおり可愛らしく初期からマスコットキャラクター的な人気を誇る。像の大きさも抱っこできそうなくらいのちょうどよいサイズなのも愛くるしい。熊本市動植物園は熊本地震により2年8か月の休園を余儀なくされた。チョッパーは一味の「船医」ということで、動物たちの支援のために動植物園に駆け付けたのだ。



トニー・トニー・チョッパー像

(10) ルフィ

17:20に訪問。熊本県庁プロムナード前に設置。麦わらの一味の船長にして主人公。今にも「海賊王に!!!俺はなる!!!!」と叫びだしそうな躍動感だ。熊本県庁

正面の奥行きのある幅広いプロムナードの中央にドン!と据え置かれている。熊本の中心で復興支援の声を上げる姿は見るものを魅了する。先述のとおり、2018年に尾田栄一郎氏が県民栄誉賞を贈呈され、その栄誉を称えるとともに、熊本地震からの復興の象徴として、2019年11月30日に仲間に先立ち設置された。台座には尾田氏の手形とサインが記されている。太陽が完全に沈む少し前の夕方で、銀杏並木の紅葉や落葉とともにルフィ像が夕日に照らされて黄金に輝く神々しい情景をみることができた。感無量である。レンタカーを返却したのは18:00。約9時間のドライブ旅を無事終えた。



モンキー・D・ルフィ像

6. 熊本県防災センターが伝える教訓

翌日2023年11月30日には、同年5月より本格運用を開始した熊本県「防災センター」新庁舎の「展示・学習室」を見学した。熊本県の災害史が詳しく展示されており、特定非常災害にもなった令和2年7月豪雨に関してはプロジェクションマッピング等を用いて気象災害について解説するコーナーもあった。担当者に確認したところ既に8000名以上の来館者があったという。災害関連の記録集も多数所蔵があり、コンパクトながらも、災害の教訓を伝承しようという気合いをひしひしとを感じる展示であった。避難所の様子や備蓄品の展示コーナーには、段ボールベッド及び簡易

ベッドが展示されていた。直接死者 50 名に対して、災害関連死 273 名という膨大な犠牲者を生んでしまったことへの教訓が見て取れる。災害関連死の主な原因は、劣悪な避難所環境（特に避難所が雑魚寝状態で簡易別途を利用しなかったことでエコノミークラス症候群や感染症を多数生んだこと）が主要因だったからである⁽¹⁵⁾。



熊本県防災センター展示・学習室

補注

- (1) 尾田栄一郎原作の『ONE PIECE』（ワンピース）は、本稿での訪問時において週刊少年ジャンプで連載 1099 話、単行本既刊 107 巻、アニメ放送第 1085 話。単行本発行部数は 5 億 1000 万部以上。筆者は 1997 年の少年ジャンプ（集英社）連載開始当時から週刊誌連載読者である。
- (2) 2016 年 4 月 14 日と同月 16 日に震度 7 を記録した熊本地方を震源とする大地震。死者 272 名（内直接死 50 名）、全半壊住宅 43,386 棟（内閣府 2019 年 4 月 12 日時点）。史上 4 番目の特定非常災害に指定。
- (3) 企画詳細について ONE PIECE 熊本復興プロジェクト専用公式ウェブサイトおよび熊本県作成公式パンフレット「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト麦わらの一味ヒロ国復興編」等を参照。
<https://op-kumamoto.com/>(2024-01-01)
- (4) コンセプトの概要について熊本地震震災ミュージアム記憶の回廊公式ウェブサイト参照。
<https://kumamotojishin-museum.com/>(2023-12-01)
- (5) 「聖地巡礼」は、岡本健（2019）の定義では「アニメ作品のロケ地、またはその作品・作者に関連する土地で、且つファンによってその価値が認められている場所を訪ねること」とされている。

- (6) 読売新聞 2022 年 8 月 23 日朝刊「麦わらの一味 ドンと復興応援 ワンピース像 10 体完成 全国からファン」の記載による。
- (7) 朝日新聞 2022 年 12 月 3 日夕刊「熊本の震災遺構×ワンピース 大学生がアプリ開発「風化防ぎたい」等参照。熊本県観光戦略部観光交流政策課が企画し、熊本県立大学総合管理学部飯村研究室が開発。
<https://op-kumamoto.com/ikou/> (2023-12-01)
- (8) 楠見清（2014）「キャラクターの銅像にみる出版文化と地域振興—マンガのパブリック・アート化と大衆コンフォームイズム」日本出版学会 2014 年 11 月秋季研究発表会による定義。
- (9) 鉄人 28 号像の経緯等については KOBE 鉄人 PROJECT 公式ウェブサイト詳しい。
<https://www.kobe-tetsujin.com/> (2023-12-01)
- (10) 岡本正（2016）「【コラム】阪神・淡路大震災から 21 年 神戸新長田の病院に見出した希望」において 2016 年 2 月に新長田を視察した様子を記録。
<https://www.law-okamoto.jp/column/2762.html> (2023-12-01)
- (11) 塩崎賢明神戸大学名教授（塩崎 2014）など。
- (12) 日本経済新聞 2010 年 12 月 2 日「鉄人 28 号」像で 142 億円経済効果、大阪市大が試算」。経済効果は、事業、消費、交通の 3 つから計測。消費と交通効果は 09 年 10 月～10 年 3 月の 6 カ月間、事業効果は完成までの 3 年。
- (13) 全国町村会ウェブサイト「ご当地キャラじまん／大津町 マスコットキャラクター からいもくん」。
<https://www.zck.or.jp/site/local-mascot/24763.html> (2023-12-01)
- (14) 日本経済新聞 2023 年 8 月 16 日「全線運転再開 1 ヶ月南阿蘇鉄道、収支均衡急ぐ 30 年ぶり新型車両 ワンピースとコラボ」
- (15) 岡本正（2018）、同（2023）等で災害関連死をめぐる各種課題を詳細に検討している。

参考文献

- 1) 尾田栄一郎（1997）『ONE PIECE』集英社
- 2) 岡本健（2009）「アニメ聖地巡礼の誕生と展開」観光学高等研究センター叢書 1 pp. 31-62
- 3) 楠見清・南信長（2017）『もにゅキャラ巡礼 銅像になったマンガ&アニメキャラたち』扶桑社
- 4) 永田郁（2019）「銅像を歩く。小田原のどこか「この国の彫刻のために」『彫刻の問題』を歩く（つづき）」崇城大学芸術学部紀要 第 13 号 pp.85-103
- 5) 塩崎賢明（2014）『復興（災害）阪神・淡路大震災と東日本大震災』岩波書店
- 6) 井出明（2018）『ダークツーリズム 悲しみの記憶を巡る旅』幻冬舎
- 7) 岡本正（2018）『災害復興法学Ⅱ』慶應義塾大学出版会
- 8) 岡本正（2023）『災害復興法学Ⅲ』慶應義塾大学出版会

麦わらの一味	設置日	場所	住所	熊本復興プロジェクトによる説明 (麦わらの一味について)	熊本復興プロジェクトによる説明 (市町村の状況や復興の説明)
ルフィ	2019年11月30日	熊本市県庁プロムナード	熊本市中央区水前寺6丁目18-1	熊本こと「ヒノ国」に上陸した麦わらの一味は、熊本地震の被害が広範囲に及び、住民が苦しんでいることを知ります。そこで船長ルフィが、一味の仲間たちに被災地の復興の手助けを指示！仲間たちはそれぞれの特技で被災地の困り事を解決し、復興へのエールを送るルフィのもとでの再会を誓います。	熊本県は、本県出身の漫画家・尾田栄一郎氏が描く人気漫画「ONE PIECE」と連携して「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」に取り組んでいます。2018年には、尾田氏の県民栄誉賞受賞の記念として、漫画家としての業績と復興支援への多大なご支援の功績を末永く称えらるとともに、復興の象徴として、ルフィ像を熊本県庁プロムナードに設置しました。2019年度からは、「麦わらの一味「ヒノ国」復興編」として、県内9市町村に麦わらの一味の仲間の像を4年かけて設置しました。熊本地震からの復興の原動力となるよう、県をあげてさまざまなプロジェクトを実施しています。
サンジ	2019年12月7日	益城町ミナテラス	上益城郡益城町木山236	2度の震度7の地震で給食センターが被災した益城町には、「コック」のサンジが駆け付けました。地元農産物を使い、おいしく温かい給食を作ることで町の未来を担う子どもたちの健康と笑顔を創り出します。	県内で最も大きな震度7の地震を2度経験した益城町。町内7つの小中学校の給食をつくらっていた「給食センター」は、再建に2年の歳月がかかりました。自宅や学校の被災に加え、長い間温かい給食が食べられず、辛い思いをした子どもたちですが、地震を乗り越え徐々に笑顔を取り戻しています。
ウソップ	2019年12月8日	阿蘇市阿蘇駅前	阿蘇市黒川1444-2	住民の誇りである阿蘇の大草原が大きく傷んだ阿蘇市には、「狙撃手」のウソップが駆け付けました。緑(自然)の力を操る道具で、草原の再生を手助けし、住民の誇りと笑顔を取り戻します。	熊本地震は、阿蘇の外輪山や五岳の崩落を引き起こしました。中には、広大な草原を維持するための「野焼き」ができなくなった場所もあります。これらは人の手による復旧が難しいところもありますが、自ら蘇ろうとする自然の力で、元の姿を取り戻しつつあります。
チョッパー	2020年11月7日	熊本市動物園	熊本市東区健軍5丁目14-2	地震で獣舎が被災した熊本市動物園には、「船医」のチョッパーが駆け付けました。県外の動物園への避難を余儀なくされた動物たちのケアを行い、来園する子どもたちの笑顔を創り出します。	熊本市の中心街からほど近い江津湖のほとりに広がる熊本市動物園は、住民の憩いの場として愛されてきました。熊本地震の影響で2年8ヵ月におよぶ長い休園を余儀なくされましたが、2018年12月に全面開園しました。
ブルック	2020年11月8日	御船町ふれあい広場	上益城郡御船町大字辺田見100	音楽大学に加え、多くの住宅が被害を受けた御船町には、「音楽家」のブルックが駆け付けました。音大生と奏でる復興への応援歌と軽快なジョークで住民の心の復興を後押しし、町の明るい復興を目指します。	九州唯一の音楽単科大学「平成音楽大学」が被災し約1ヵ月休校。その間、一時学内から音楽が消えました。音楽の力で復興を後押しするよう、学生たちは町民に音楽を届けてくれます。
フランク	2020年11月21日	高森町高森駅前	阿蘇郡高森町高森1537-2	通院・通学の足である南阿蘇鉄道が寸断された高森町には、「船大工」のフランクが駆け付けました。海列車を作った師匠トムのように、被災地域の希望となるべく、鉄道の発着駅で全線再開への金槌を鳴らします。	南阿蘇鉄道は地震によって一時廃線の危機にまで追い込まれましたが、地元の人が立ち上がり、その取り組みが大きくなりとなって全国から支援が寄せられました。部分運行の期間を経て、2023年7月15日に全線復旧しました。
ナミ	2021年7月31日	西原村俵山交流館 萌の里	阿蘇郡西原村小森2115-3	集落単位で被害を受け、コミュニティの再建が課題である西原村には、「航海士」のナミが駆け付けました。ココヤシ村での経験に重ねながら、被災した村のシンボルの風車と全集落の復興に応援の風を送り続けます。	西原村は、俵山を中心に広大な原野が広がり、山から吹き下ろす“風”が特徴的な村です。震度7の地震を受け、8割以上の家屋が全半壊となった集落が多く、集落単位で被災。集落再生まちづくりに、村をあげて取り組んでいます。
ロビン	2021年10月9日	南阿蘇村旧東海大学阿蘇キャンパス	阿蘇郡南阿蘇村河陽5435(東海大学阿蘇実習フィールド横)	地震の被害や教訓を後世に伝承する、震災ミュージアムの中核拠点となっている旧東海大学阿蘇キャンパスには、「考古学者」のロビンが駆け付けました。南阿蘇村の「復興」が花開くよう、歴史の語り部として研究を重ね、記憶と教訓を語り継ぐ手助けを行います。	「熊本地震震災ミュージアム」の中核拠点として生まれ変わった旧東海大学阿蘇キャンパスは、地震の大きな痕跡が土地・建物ともに当時のままで残っていて、被害の実情や自然の驚異を教えてください。2023年7月には地震について学べる展示施設「KIOKU(きおく)」がオープンしました。
ゾロ	2022年1月22日	大津町大津中央公園	菊池郡大津町大字大津1156-3	子どもたちが稽古に励んだ武道場の被災をはじめ生活が一変した大津町には、「戦闘員」のゾロが駆け付けました。剣道が盛んな土地柄を活かして、子どもたちと広場で剣の修行を重ね、地震に負けない町づくりを目指します。(2022年1月22日設置)	大津町は県道が盛んで、全国レベルの強豪道場もあります。地震ではそのような道場をはじめ、江戸時代に宿場町として栄えた頃から残る歴史ある建物や史跡、熊本県の地下水を守る水路なども被害を受けました。
ジンベエ	2023年7月23日	宇土市住吉海岸公園	宇土市住吉町3162-1	地震で損壊した市役所の新庁舎建設が進む宇土市には、「操舵手」のジンベエが駆け付けました。太陽に照らされる雄大な海を背に、市民を温かく見守りながら、更なる復興への舵取りを行います。	宇土市は、熊本地震で市役所庁舎が損壊し、防災拠点を失いましたが、令和5年に新庁舎が完成しました。像の設置場所からは、千歳日本一の有明海を臨むことができ、干潮時のみ現れる「長部田海床路」の不思議な光景もお楽しみいただけます。

表1 ONE PIECE「麦わらの一味」の10人の像及び設置場所に関する情報の概要

※熊本県「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト麦わらの一味ヒノ国復興編」のリーフレット情報を抜粋して作成